



石材施工

写真左から) 白井保浩ものづくりマスター、受入担当の笹尾敏章事務局長 写真右上から) 受講者の水村仰さん、太田眞介さん

ものづくりマスター派遣先



讃岐石材加工協同組合に所属する事業所の若手職人2名が、技能五輪全国大会を目標に練習を重ねていく中で、専門的な指導を行う必要がありましたが、2人が所属する会社内だけでは、どうしても指導できる範囲に限界がありました。そこで、「ものづくりマスター制度」を活用し、外部から専門の技術と経験を備えた技能者を招いて指導を受けることにしました。

讃岐石材加工協同組合

〒761-0121 香川県高松市牟礼町牟礼 2625-18
 代表者：漆原 憲和
 資本金：3,971 万円
 設立：昭和23年 牟礼石材加工企業組合発足
 昭和45年1月 讃岐石材加工協同組合法人設立
 組合員：128名 (H27.7 取材当時)

期間	6月～8月
実施場所	讃岐石材加工協同組合
受講者数	2名

教わる楽しさと、教える楽しさを伝えたい

ものづくりマスター 白井保浩

「教えること」を継承していきたい

ものづくりマスターとして若手の指導を始めたきっかけは、私が若手のころ、周りに技能を教えてくれる人がいなかったという経験によるものです。

当時、組合の若手職人が集まる青年部を盛り上げたいという気持ちから、「部活動」のような形で技能検定1級の受検を目指す取組みを始めました。当然、先輩の職人から指導を受けたかったのですが、私の父をはじめ、当時の職人さんたちは、高い技能がありながらも「教える」ことは得意でなく、なかなか協力は得られませんでした。ようやく、先輩職人の紹介で指導してもらえる人が見つかり、その人の指導のもとに練習し、技能検定に合格することができました。この時、「教わることができる幸せ」を強く感じ、「自分が伝えてもらったものは、次世代にも伝えていくべき」という想いを強くしました。これが、ものづくりマスターとして若手の指導に当たる私の原動力です。

私は、若手から求められたとき、いつでも教えられようような立場にいたいと思います。そして、教わった人は、ぜひ、その下の世代にも教えていってほしいと思います。

受講者の経験差を指導の時間配分にうまく活用する

受講を始める段階で、受講者2名の技術レベルがそれぞれ異なっていたので、その点についても、教える際に気を配りました。受講者の太田さんは、既に石材加工会社で修行の経験があったため、教えることが逆に本人のやり方を乱してしまうことにならないか、どこまで指導すべきかと悩みました。一方、水村さんは未経験で、ゼロからのスタートでしたので、まずは水村さんに付きっきりで教えるを得ませんでした。そこで、まずは太田さんには、自分のやり方でやりたいようにやらせ、それを随時確認しながら、水村さんにマンツーマンで教えていくという進め方を取りました。太田さんに対しては、作業を見ている中で「どうしても気になる、絶対に修正したほうが良いと思う部分」をピンポイントで指摘していきました。こうすることで、受講時間を有効に活用し、2名の受講者それぞれに最適な指導ができるようになりました。結果として、受講者2名が技能五輪全国大会に出場することができ、金メダルと銀メダルを取ることができたこと聞き、とても有意義な時間の使い方ができたのではと思っています。

受講者の良い部分を尊重した上で、自身の経験と照らし合わせて弱点を補強する

石は、産地によって固さなどの性質が全く異なり、施工のコツも異なります。そのため、どの場所で修行したかによって、やり方に差が出るのは当然です。

受講者の1人である太田さんは、愛知県岡崎市で数年間の修行経験がありました。そのため、ずっと香川で仕事をしてきた私の手法とは異なる点が幾つかありました。それを活かすためにも、受講者の長所を伸ばしながら弱点を補強していく「無理におしつけない」教え方を意識しました。進め方は、まずは受講者のやり方を見て、それぞれの技能の特徴をできる限り尊重しながら、自身の経験と照らし合わせます。その上で、それでもなお修正したほうがよいと思う部分のみ、指摘をしていくようにしました。また、技能五輪では、作業効率と精度の両方が求められます。特に大切なのが競技開始後の10分間で、ここで、いかに落ち着いて作業の段取りを考えられるかが、勝負を左右します。この10分間の使い方については、受講者2名の性格を見極め、個別に細かくアドバイスをしました。



ものづくりマスター

白井 保浩 (しらい やすひろ)

昭和42年3月15日生まれ
 平成16年度 1級技能士 石材施工 (石材加工作業) 取得
 平成17年度 1級技能士 石材施工 (石張り作業、石積み作業) 取得
 平成25年度 厚生労働省ものづくりマスター (石材施工) 認定

チャレンジ精神旺盛な、若手のやる気に 応えることができた

受入担当者 笹尾敏章 事務局長

技能五輪への挑戦に当たり、専門性と 経験を備えた技能者の指導が必要だった

水村さんと太田さんは、別々の石材加工会社で修行をしながらも、互いを意識し、切磋琢磨し合っている、期待の若手です。

2人は、技能五輪への挑戦という目標を共有し、共に練習に励んでいました。その中で、当然ながら、2人での自学自習だけでは解決できない、難しい練習や壁が出てきました。そのような時は、先輩の職人が専門的な指導を行う必要がありますが、2人が所属する会社内だけでは指導できる範囲に限界があり、専門の技能と経験を備えた技能者による指導が不可欠でした。そのような中、「ものづくりマイスター制度」の存在を知り、地域技能振興コーナーに技能者の派遣を相談しました。日程調整については、指導をお願いしたいタイミングに合わせて、多忙な白井マイスターのお時間を合わせることに苦労しました。

地域技能振興コーナーに相談することで ニーズに合う技能者を紹介してもらえた

若手の職人にとって、自分が所属する会社内だけでなく、外部の技能者の指導を受けることでより多くの技能が身につきます。

しかし、自分たちのニーズに合った指導を引き受けられる技能者を、自ら探して指導の依頼に行くことは、ハードルの高いことだと思います。

その点、「ものづくりマイスター制度」は、自分達が指導してほしい内容を、地域技能振興コーナーに相談すれば、それに合った技能者のコーディネートをして頂けるため、非常に有意義な制度だと思います。今回の取組みは、受講生2人にとっても、本当によい経験になったと感じています。



写真上、中) 白井マイスターの指導の様子
写真下) 左から白井マイスター、太田さん、水村さん

ものづくりマイスターの指導と 切磋琢磨できる仲間がいたから頑張れた！

受講者の声

技能検定や技能五輪をマイルストーンに さらなる技能向上を目指す

私は、数年間の修行経験はありましたが、今回改めて基礎から見てもらえたことで、自分のスキルの棚卸しや、客観的に得意・不得意を認識できました。基礎固めの大切さを再認識しました。(太田さん)

初心者の私にとって、道具の使い方から教えてもらえたことがよかったです。思うように練習が進まず苦しいときもありましたが、白井マイスターの熱意に応えようと奮い立ちました。(水村さん)

技能五輪への挑戦は、修行をする上で良いマイルストーンとなりました。また、2人で同じ目標に向かって切磋琢磨していく環境作りができるよう、白井マイスターが練習の流れを作ってくれたことも、大きかったです。互いに意見交換をし、励まし合いながら練習に取り組めました。(太田さん、水村さん)

将来、自分自身が石工の魅力 若手に伝えられるようになりたい

自分も白井マイスターのように、石工の魅力を若手に伝えられるようになりたいと思います。白井マイスターに教えてもらったものを、自分だけの技能として終わりにしたくないです。職人は、個人のスキルの追求でもありますが、それだけでなく、皆で協力して石工の業界を盛り上げたいです。(太田さん)



写真上) 白井マイスターの指導の様子
写真下) 技能五輪全国大会の課題を活用した練習作品

【地域技能振興コーナー担当者より】

讃岐石材加工協同組合は、修行しようとする若手に対して、必要な道具の手配や、指導時間の確保、また、組合内で連携し手の空いている職人が教えにきてくれるなど、非常に手厚いバックアップ体制が取られています。

「ものづくりマイスター制度」は、ものづくりマイスターだけで成り立っているものではなく、こうした受講者の所属組織や周辺組織の理解と協力も非常に重要だと思います。より良い指導となるよう、コーナーでもできる限りの支援を行っていききたいと思います。

カリキュラム

	指導日	指導内容
1	6/17	過去の技能五輪全国大会の課題を活用 エアーツールの使い方(持ち方)
2,3	6/19,24	エアーツールの使い方、のみの研ぎ方
4	6/26	平面の仕上げ1(ピシャン)
5	7/1	平面の仕上げ1 (ハツリノミ、タガネノミ、ピシャン)
6~8	7/3,8,10	平面の仕上げ1 (ハツリノミ、タガネノミ、小タタキ)
9,10	7/15,17	平面の仕上げ2(チップパーで角取り、ハツリ、 ピシャン、小タタキ)
11,12	7/22,24	平面の仕上げ2 直角の面(チップパーで角取り、 ハツリ、ピシャン、小タタキ)
13~17	7/29,30 8/5,7,12	曲面、切出しの加工、墨だし、ハツリ
18	8/19	曲面の切出しの加工
19,20	8/21,26	全体の仕上げ